



Contents

- ・【巻頭エッセー】自粛、あれこれ思うこと
… 堀江志磨 ●表紙
- ・【Parlando Interview】自分だけのものを
今井慎太郎先生 きき手・八重樫悠暉 ●2～5
- ・風景の中で⑥… 図書館長 井上郷子
資料の部屋⑥… 高橋京子 ●6
- ・【私のおすすめ】… 古田もね 吉原佑香 ●7
- ・国立国会図書館デジタルコレクション
Information ●8

Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No. 308

【巻頭エッセー】 自粛、あれこれ思うこと

堀江 志磨

春先のコロナ自粛中に、幼なじみから「7日間ブックカバーチャレンジ」というバトンが回ってきた。Facebookのイベントである。投稿にはあまり熱心ではない私だが、大学のオンライン授業が決まり、Google Classroomなるものの習得や、授業運営のための慣れないオンライン会議で、文字通り朝から晩までパソコンにかじりついている日々の気分転換になればと、ぼちぼち始めてみることにした。

私は、本の重みと匂いが好きである。昨今は、電子書籍が台頭してきて、ある意味便利な世の中になったが、本を手にとったときの重み、ページを開いたときの印刷の匂い、ページをめくるときの指先の感触と微かな音、そんなことに私はものすごく愛着を感じる。7冊を選び出すために、自分の本棚の前に立ち、あれにしようか、これにしようかと、本を手に取りページをめくってみた。新しい本には新しい本の、古い本には古い本の匂いがし、目に映る文字と相まって、読んだ当時の気持ちや状況が蘇り、一瞬タイムスリップしたような気分になった。嗅覚と記憶の結びつきの強さは、他のどの感覚にもかなわないと思う。パソコン作業で疲れが溜まる中で、徐々に気持ちを刺激される心地よさを味わった。

候補の本を絞っていくなかで、改めて思うこともあった。私には本の最後に読んだ日の日付を入れておく習慣がある。今回、自分の心に深く刻まれている本を選んでいくと、意外なことにそれは最近読んだ本ではなく、10代終わりから20代

の終わりにかけて読んだ本がほとんどであった。学生時代に友達と競うように読んだ本であったり、留学を決めて、日本を知りたくて読んだ本であったり、また留学中にどうしても日本語の活字が読みたくなって、遥々電車に乗って日本語の本を売っている本屋まで行き、もどめた本であったりした。

昔、人生の先輩たちに、若い時は、怖がらずなんでもやっておきなさい、聴きたいものがあるならどこまででも行きなさい、なんでも見て読んでおきなさい、と言われたのは、こういうことなのかと改めて思い至る。感受性の豊かな時期に身に「入れたもの」は時を経ても抜けてはいかない。必要に迫られて、あとから付け焼き刃でかじったものは、見聞きしたことすら時のかなたに置き捨てているのだと思う。

世の中の変化は、それはすごい勢いですすむ。少し前まで、ZoomもGoogle Classroomも聞いたこともない言葉であったのに、今では当たり前のように日々の会話に登場してくる。それらのツールを使っている自分が時々信じられなかったりもする。変わっていくものに乗っていくしなやかさは、今の時代には絶対に必要なことだ。一方で、変わっていくものに翻弄されて、自分でも気づかぬうちに大切なものを失っている可能性もある。動いていく時代の中において、しばし立ち止まって自分の立ち位置を考え、取捨選択する余裕を持ちたい。思いがけないFacebookの投稿を通じて、そんなことを感じた。

●ほりえ しま 本学准教授(ピアノ)